監修者のことば

「あめいろぐ」シリーズ第二弾となる本書のテーマは，ホスピタリスト（病院内総合医）です．日本における病院や専門医の発展の歴史的経緯を考えても，日本の医療の大きな“弱点”の１つと考えてよいでしょう．

構造的に，日本ではホスピタリストが発展しづらい仕組みになっています．大学は臓器別・疾病分野別の専門医を育て，各地の総合病院に派遣します．大学で“狭くて深い”教育を受けた総合病院の指導医たちは，（誤解を恐れずいえば）“広くて浅い”分野を網羅的にカバーするホスピタリストのための教育を系統的に実施することはできません．ホスピタリストを育てられるのは，“それ専用の”教育を受けてきた指導医が揃う，ひと握りの有名な（主に市中の）教育病院だけです．

そんな現状を打破すべく，今回は最強の２人に執筆いただきました．日米でのホスピタリストとしての経験から，酸いも甘いも知り尽くした石山先生には，日本の現状に舌鋒鋭く切り込んでもらいました．ハワイでまさに臨床家・教育家として活躍中の野木先生には，これぞホスピタリストの考え方，というものをみせてもらいました．200 ページにここまで内容が詰められたホスピタリストの教科書は，ほかにはありません．優先順位をつけることに長けるホスピタリストのお２人だからこそ（ホスピタリストの仕事では，効率性が非常に重視されます），なし得た業といえるでしょう．

注意しておきますが，本書はホスピタリストの重要分野を網羅した教科書では**ありません**．ホスピタリストの専門範囲のうち，日本の臨床医が特に“弱い”と考えられる分野の重要事項を集中的に扱った“尖った”教科書です．ですから，本書を読むことで身につけられる知識は，明日から適用可能なものばかりです．まさに，極めてコスパのよい１冊なのです．

ぜひ，最先端を走る２人のホスピタリストが繰り出す「本音」の数々をお楽しみください．ちなみに，『あめいろぐ』（http://ameilog.com）の「あめいろぐカンファレンス」コーナーで，本書のことを取り上げる予定です．今後の「あめいろぐ」シリーズの展開も，どうぞお楽しみに．

2018 年１月吉日

シリーズ監修　反田 篤志